

31.リュウキュウユビナガコウモリ *Miniopterus fuscus* Bonhote,1902

環境省 EN



成 獣



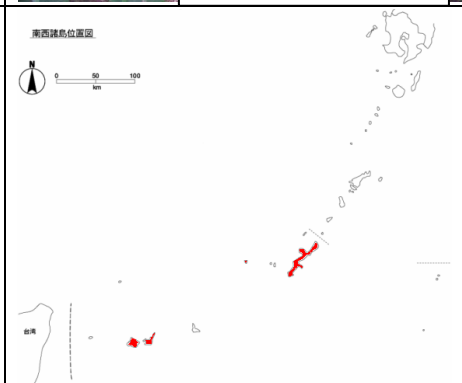
集団で休息する(自然洞窟)



昼間のねぐら(自然洞窟)

分布

奄美群島以南の南西諸島に分布する。



形態

前腕長 43～46.5 mm、頭胴長 50～60 mm、尾長 45～55 mm、体重 8.0～11.0 g。体毛色は褐色。ユビナガコウモリと同じく翼は狭長型シルエットであるが、ユビナガコウモリに比して小型である。

生態

昼間の休息場所に石灰岩の鍾乳洞や防空壕のような人工洞を利用し、大きな集団では数百頭以上になる。5～6月頃に雌のみの出産育児コロニーを形成して出産する。産仔数は1個体。ねぐらから飛び出した個体は樹冠上空を飛翔し、地表面近くでの行動はあまり見られない。冬季にも活動するため冬眠しないと考えられているが、冬期に姿が極端に減少する分布域もある。この理由の一つとして季節的にねぐらを変えている例も確認されているが、多くの島の個体群について季節移動の実態は未解明である。

参考文献 1)、2)、8)、43)、50)

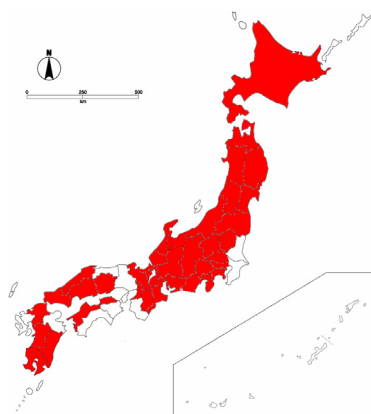
32. テングコウモリ *Murina hilgendorfi* Peters, 1880

環境省 VU



分布

北海道、本州、四国、九州に分布する日本の固有種である。



形態

前腕長 41～46 mm、頭胴長 59～73 mm、尾長 36～47 mm、体重 9.0～15.0 g。体毛色は灰褐色系の体毛で腹面は薄い。腿間膜は背面全部が長い毛で覆われている。全体に生える刺毛は先端が銀色光沢で、全体的印象を銀色に見せる。鼻孔は管状の形状をなし、これを鼻管という。鼻管が外側前方に向かって突出する。翼のシルエットは広短型である。

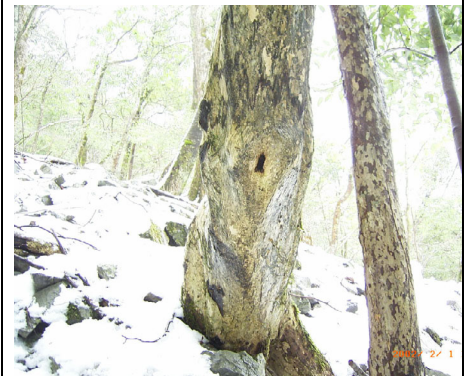
生態

昼間の休息場所に樹洞を利用するほか、洞穴天井のくぼみや割れ目に入り込んでの休息や樹洞内部でなく低木の葉の繁みの中で懸下している姿もよく見つかる。単独あるいは小群で見つかることが多い。最近、数十個体以上が集合する洞穴が各地で相次いで確認された。飛翔位置は地表面近くであることが多い。このためロードキルに遭遇しやすいコウモリかもしれない。採餌位置は林内下層で、低く飛翔する昆虫を捕食するとも考えられている。

参考文献 1)、2)、13)、15)、16)、17)、18)、21)、23)、24)、27)、31)、32)、33)、34)、36)、37)、38)、39)、41)、48)、49)、67)、69)

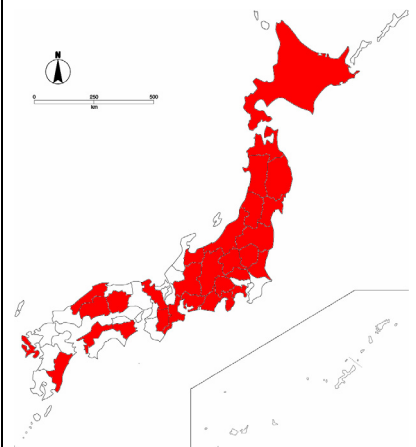
33.コテングコウモリ *Murina ussuriensis* Ognev,1913

環境省 VU



分布

北海道、本州、四国、九州、屋久島、対馬、奄岐に分布する。



形態

前腕長 29～33 mm、頭胴長 41～54 mm、尾長 26～33 mm、体重 3.5～6.5 g。体毛色は明るい黄土色から薄茶色。頭胴だけでなく腿間膜背面から後縁にかけても全体が長毛で覆われている。鼻孔は管状で、外側やや前方に突出する。翼のシルエットは広短型である。

生態

昼間の休息場所は樹洞と考えられているが、樹皮下や落ち葉の下のほか、洞穴、巣箱、家屋内など色々な場所で見ついている。昼間にオープンな場所で見つかることもあるが、採餌は夜間で林内を飛翔する昆虫類や、樹木上にとまる昆虫類も捕食すると考えられている。初夏に出産し、産仔数は1～2と考えられている。

参考文献 1)、2)、13)、15)、16)、17)、18)、21)、22)、23)、24)、25)、27)、29)、31)、32)、33)、39)、41)、42)、45)、47)、49)、57)、58)、59)、66) 68)、69)

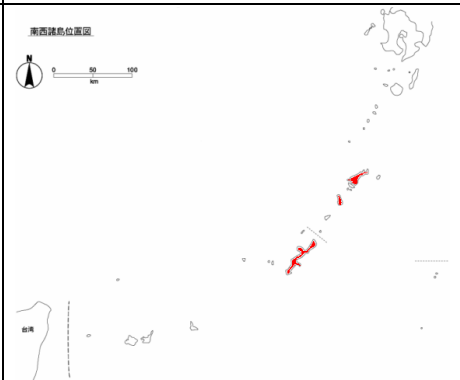
34.リュウキュウテングコウモリ *Murina ryukyuana* Maeda&Matsumura,1998

環境省 EN



分布

南西諸島特産種であり、沖縄島、徳之島、奄美大島で記録がある。



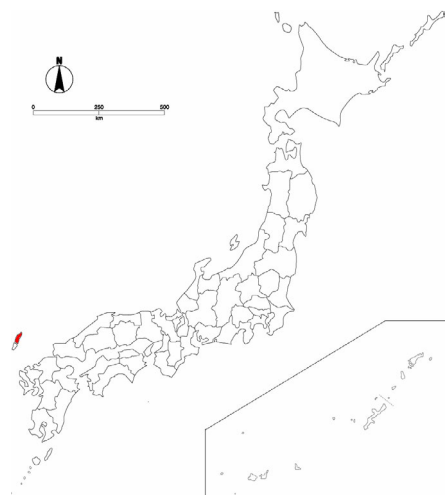
形態

前腕長 38~38 mm、頭胴長 45~55 mm、尾長 35~45 mm、体重 5.0~10.0 g。明るい黄褐色の体毛を持つコテングコウモリに比して、体毛色はやや黒褐色に近く全体の印象は大きく異なる。

生態

昼間の休息場所は樹洞で、細い木にできた小さな樹洞に一個体が入っていた例がある。比較的最近見つかったコウモリであるため、詳細な生態に関しては不明である。

参考文献 1)、2)、12)

35.クチバテングコウモリ <i>Murina tenebrosa</i> Yoshiyuki,1970		環境省 DD
写真無し	写真無し	
	写真無し	
分布 対馬で模式標本が 1 個体採集された記録のみである。		
形態 模式標本の前腕長 34 mm、頭胴長 50.5 mm、尾長 34.5 mm。体毛色は暗褐色。粗な毛が腿間膜背面にあるのみで、ほとんど裸出状態であるのが他の日本産 <i>Murina</i> 属と異なる点である。鼻管が外側やや前方に突出している翼のシルエットは広短型である。		
生態 生態が観察されたことがなく不明。		
参考文献 1)、2)、45)、49)		

36.オヒキコウモリ *Tadarida insignis* Blyth,1861

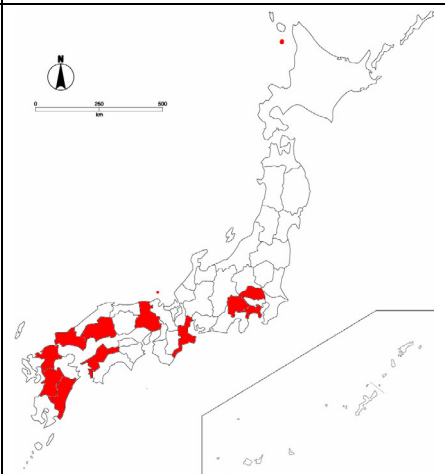
環境省 DD



分布

北海道焼尻島、本州に分布する。

近年、相次いで生息地が見つかったが、多くは本州島、九州島周辺の岩塊様の小島であった。



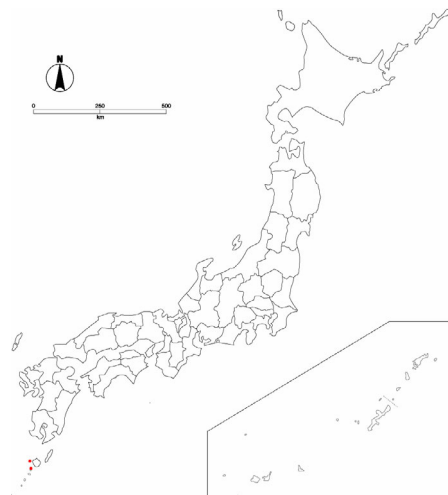
形態

前腕長 57～65 mm、頭胴長 84～94 mm、尾長 48～56 mm。体毛色は黒褐色や褐色の個体であった。飛行していない時には腿間膜先端から尾が長く突出するように変化できる。耳介は幅広で大型である。翼のシルエットは狭長型で、膜の質感が他のコガタコウモリ類に比してオオコウモリ類的な印象である。

生態

かつては偶然拾われたり保護されただけであったため様々な場所で見つかったが、常時生息している場所として近年確認された昼間の休息場所は、離島の岩や建築物の隙間といった場所であった。7～8月に出産哺育行動が観察されている。チョウ目が主食と考えられている。飛行中にエコーロケーションパルスは可聴域の低い声を発することが知られている。このためバットディテクターを介さず直接耳で「チンチンチン」という音で聞こえることがある。

参考文献 1)、2)、13)、25)、27)、37)、38)、41)、47)、48)、49)、53)、64)

37.スミロオヒキコウモリ <i>Tadarida latouchei</i> Thomas,1920		環境省 DD
写真無し	写真無し	
	写真無し	
<u>分布</u> 記録があるのは鹿児島県奄美大島と口永良部島の2例のみである。		
<u>形態</u> 採集された2個体の計測値は、それぞれ前腕長が53.6 mmと55.3 mm、頭胴長が67.3 mmと81.5 mm、尾長が41.2 mmと45.0 mmと、オヒキコウモリより明らかに小型である。体毛色は黒味が強く毛の長さも短い。腿間膜から尾が突出する点や耳介の形状が幅広で大型な点はオヒキコウモリと同様である。		
<u>生態</u> 採集例が2頭のみであり、詳細な生態については不明。		
参考文献 1)、2)		